

保険の仕組み。入の半分は、健保組合の約8割

「働く世代が高齢者を支えるための「健保組合」は、後継者支援基金」と呼ばれる。年金を国に年約1・6兆円を納めている。

「健保組合」は、従業員の健康診査の受診率に加え、①血液検査の数値など健康診断の結果を踏まえて、従業員の健康を管理している。



能た

歯削る機器 7割使い回し

感染研調査 滅菌せず 院内感染懸念

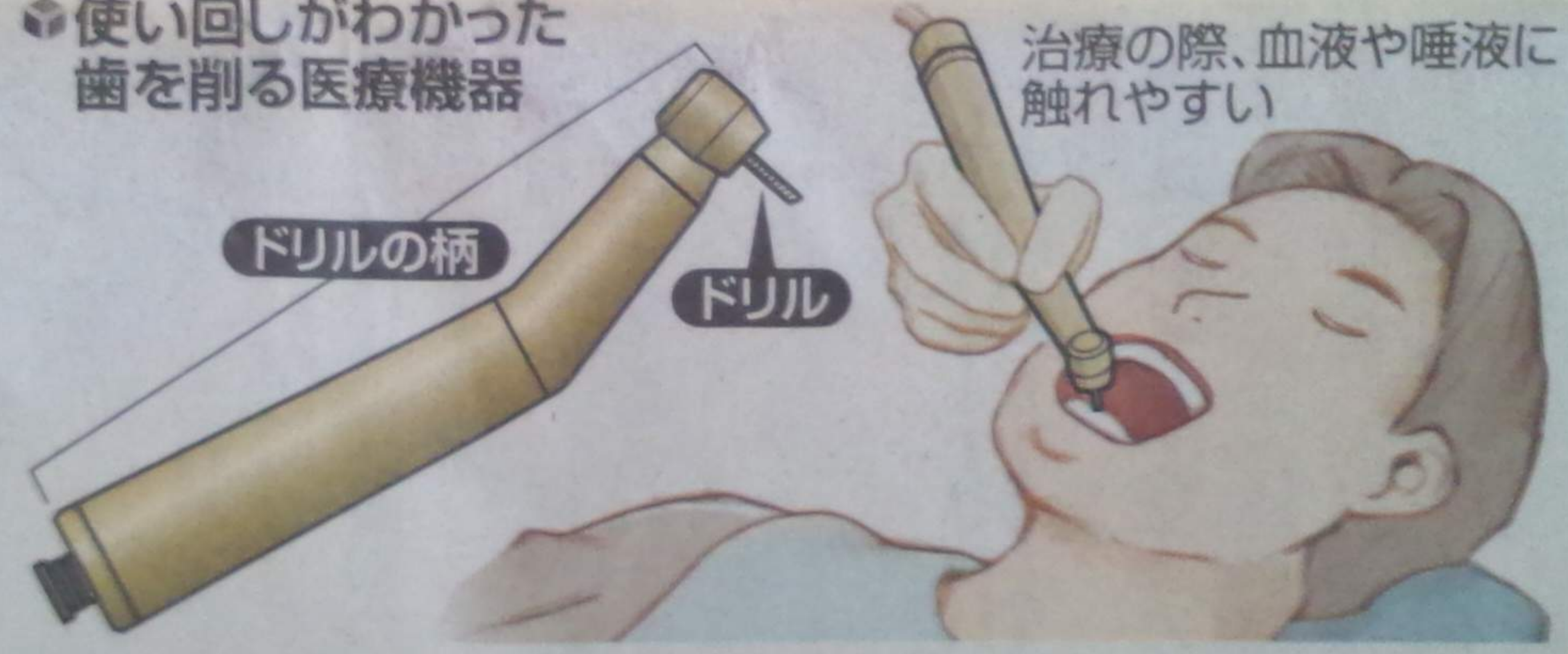
歯を削る医療機器を滅菌せず患者間で使い回している歯科医療機関が約7割に上る可能性のあることが、国立感染症研究所などの研究チームの調査でわかった。機器を介してウイルスや細菌に感染する恐れがあり、研究チームは、患者ごとに清潔な機器と交換するよう呼びかけている。

調査対象としたのは、歯を削るドリルを取り付けた柄の部分。歯には直接触れないが、治療の際には口の中に入るため、唾液や血液が付着しやすい。使用後は、高温で滅菌処理をした清潔な機器と交換することが、日本歯科医学会の診療指針で定められている。

調査は、特定の県の歯科医療機関3152施設に対して実施した。2014年1月まで1801施設（28%）から回答を得た。

滅菌した機器と交換しているが聞いたところ、患者ごとに必ず交換し、患者ごとに必ず交換し、患者ごとに必ず交換した。一方、「交

●使い回しがわかった歯を削る医療機器



換していない」は17%、「時々交換」は14%、「患者が何らかの感染症にかかっている時だけ交換」は35%で、計66%で機器を適切に交換していなかった。

同じ調査は、07、13年に計4回、別の県でも行っており、使い回しの割合は平均で71%だった。研究チームの泉福英信・国立感染症研究所室長によ

ると、多くの歯科では人手や費用がかかり、アルコールで拭くなどの簡単な消毒や洗浄をしたただで繰り返し使っているとみられる。歯科関係者の間では、ドリル部分も、同様に滅菌せずに使い回しされているという指摘もある。

厚生労働省によると、歯科での院内感染は原因の特定が難しく、国内で明らかになった例はないという。

新聞も、スマホも。
読売プレミアム
ニュースや特典が満載
yomipre.jp

*「地球を読む」はあす掲載の予定です。

編集手帳

すべてをお見通しの2人の神様が将棋を指したら結果はどうなるか。かつて評論家の小林秀雄は、友人の物理学者、中谷宇吉郎にそんな質問をぶつけている◆例えば「先手必勝」のような結論は出るだろうか、それでは勝負自体が無意味になる。こう中谷は結論づける。昭和30年代、未来の電子頭脳を想定しての問答だった◆それ